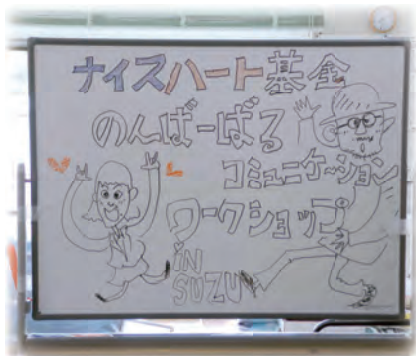




2026 年度 ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in いしかわ 実施報告書



目 次

はじめに	1
実施概要	2
スケジュール	3
「～生きることを支え、寄り添うナイスハートノンバーバルコミュニケーションのチカラ～」 庄崎 隆志	4
「一人ひとりのタイミングを大切にするノンバーバルコミュニケーション」 メイミ	7
プログラム概要 社会福祉法人すず椿	9
参加者の感想	10
プログラム概要 特定非営利活動法人 いきいき	11
参加者の感想	12
プログラム概要 ねむねむの輪	25
参加者の感想	26
編集後記	27

はじめに

当基金では、2011年の東日本大震災後の福島の子どもの被害者への取組として、「ふくしまっこキャンプ」と題した活動を福島から関東へお招きをして、2012年度から続けてまいりました。

2015年度は、福島県内において活動できる内容として、養護学校中心にノンバーバル（非言語）コミュニケーションワークショップと題した、子どもたち同士がよりよくコミュニケーションを図るきっかけとして、楽しみながら体験していただくために開催しました。また翌年も、福島県内の障害のある子どもが通う特別支援学校や障害者施設でワークショップを行い、地域の中で支えあうつながりを強くすることができないかという目的のもと、2日間で4施設を訪問させていただきました。

2017年度は、前年4月に発災した熊本地震の被災地域にある障害者団体を3施設訪問させていただき、併せて、同時期に開催された第66回全九州ろうあ者大会と協働し、研修会とアトラクションの中で、実施致しました。そして2018年度は、三陸沿岸各地で道路が開通され、復興の歩みを進めておられる宮城県の石巻市・女川町と北海道胆振東部地震で被災された北海道胆振及び札幌市の障害者施設を中心に実施し、2019年度は、前年7月の西日本豪雨において被害にあわれた広島市の障害のある方々に対して実施致しました。

その後3年間はコロナ禍により中止となり、2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となってしまった千葉市と札幌市で実施することでき、2023年度は、豪雨にて甚大な被害のあった熊本県人吉市周辺で、2024年度は、大雨による被害のあった山口県内で実施し、昨年度は2019年に大雨による被害のあった長野県内の3施設を訪問することが出来ました。

今年度は、2024年1月能登半島地震で被害のあった石川県内の障害者施設で実施することが出来、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについての学びの場と致しました。

实施概要

ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in いしかわ

1. 目 的 ノンバーバル・コミュニケーションワークショップは、言葉を使わずになかなか伝わらないもどかしさを感じながら、じっくりと相手と向き合うための空間です。そこから、自分らしい伝え方、伝えられ方を学び合う場として、当基金は、2011 年度より東日本大震災等の被災地を対象として活動を実施して参りました。
- 今年度は、2024 年 1 月能登半島地震で被害のあった石川県内の障害者施設で、新たな出会いとコミュニケーションについて考える場をつくり、障害や障害のある人への理解が深まることを目的に実施しました。
2. 日 時 2026 年 7 月 7 月（火）～ 8 日（水）
3. 場 所 社会福祉法人すず椿（石川県珠洲市）他
4. 主 催 公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金
5. 後 援 石川県 / （福）石川県社会福祉協議会
6. ファシリテーター 庄崎隆志さん office 風の器主宰・俳優・演出家
メイミさん 漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長

～スケジュール～

7月7日

【午前の部】※参加人数 17名※

09:30 社会福祉法人すず椿到着

10:05 ワークショップ開始

ハイタッチ / 拍手 / グータッチ

10:15 早着替え / 変身ショー / オリジナルダンス

10:30 エアボール / エアキャッチボール / エアなわとび

10:35 ミラーリング

10:50 汽車ごっこ / オリジナルポーズ / ナイスハートマーク

10:55 ワークショップ終了

7月8日

【午前の部】※参加人数 16名※

09:30 特定非営利活動法人 いきいき 到着

09:45 ワークショップ開始

ハイタッチ / 自己紹介 / 手拍子 / ナイスハートハートマーク

09:50 オリジナルポーズ / サインネーム

10:05 早着替え / 変身ショー

10:20 エアお手玉 / エアなわとび / オリジナルダンス

10:25 エアフィッシング

10:40 庄崎パフォーマンス・男と女の出会い

10:45 ワークショップ終了

【午後の部】※参加人数 19名※

13:30 金沢市ものづくり会館到着

14:00 ワークショップ開始

ハイタッチ / 手拍子 / エア相撲

14:10 オリジナルポーズ / 早着替え / 変身ショー

14:30 エアボール / エアキャッチボール

14:35 エアフィッシング / エア舟漕ぎ

手拍子 / オリジナルダンス / ナイスハートマーク

14:45 ワークショップ終了

心を一つにすることの大切さを思い起こす ナイスハートワークショップ



庄崎 隆志

Takashi Shozaki

ノンバーバルコミュニケーションワークショップは、言葉を一切使わない身体表現に特化した無言劇です。無言なので、己の肉体と感情表現のみ。メイミと私のふたりで演じるリズムを作り出します。多彩な表現ができるノンバーバル劇、そして身体ひとつで楽しく遊び、たくさんの人とつながることもできます。改めてこの度のノンバーバルコミュニケーションワークショップ奥能登半島・金沢3箇所は貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。私自身もノンバーバル劇と向き合う、良い機会になりました。言葉が一切ない表現を見たとき、障害を持つ方々がどのように感じるかという不安がありましたが、まずは目の前のことから始めることに決めました。長年コンビネーションをしてきたファシリテーターのメイミさんと言葉を交わさずとも阿吽の呼吸でワークショップをシンプルながら進めて始めました。私たちから参加の皆さんにジェスチャーをしてから冒頭のハイタッチ挨拶をしました。ココロとカラダがほぐれたところで、ノンバーバル劇の世界を体験していただきます。その後は参加者の一人ずつが暖簾から飛び出す変身を発表するのですが、一人一人違う個性が出ていて面白かったです。目に見えないボールを投げたり、操ったり、縄跳びや釣りマイム、参加者が勝手に踊り出すなど、参加者たちが自然と気持ちが乗ってきたところで普段している動きに想像力を組み合わせて不思議な世界を表現しました。会場で一言も言葉を発さず、それでも身体表現だけで雄弁に動いてくれた参加者たちの姿を見て、感動を覚えずにはいられませんでした。今回は、優しく楽しい雰囲気包まれた皆さんと一緒に「ナイスハート ノンバーバル劇」をつくり上げた経験は、非常に有

意義で、演劇人としての大きな財産になりました。元気をお届けするつもりが、逆に皆さんに元気を頂いてしまいました。令和6年1月1日能登半島地震、忘れないことが大事。復興までの道のりはまだまだです。頑張ろう、能登半島！すべては3箇所に関わってくださった関係者の皆さん、支えてくださった方々のおかげだと深く感謝します。また、次の舞台で再会できる日を楽しみにしています。



庄崎隆志

演出家・劇作家・舞台俳優・ノンバーバルコミュニケーター
舞台俳優・日本演出者協会社会包摂部・日本劇作家協会
会員

office風の器主宰

元デフ・パペットシアター・ひとみ代表・創立メンバー
(1981～2004)

1961年東京杉並区生まれ。

身体で人間を表現する「コトバ」を超えた表現者であり、
劇作家、演出、プロデューサーも手掛ける。

1981年より全国各地780箇所2500ステージ、
欧州、米国、アジア等14ヶ国公演を経験。『オルフェウ
ス』『UKIYO E』『里亞王〜リア〜』『真夏の夜の夢』『波
無烈斗〜ハムレット』等シアターX提携公演、横浜赤レ
ンガ倉庫・俳優座劇場・横浜ランドマークタワーホール・
世田谷パブリックシアターなど演出という実績を持つ。

大学、企業、日本演出者協会の演劇大学、国際障害者年
記念ナイスハート基金、日本劇作家大会などでノンバー
バル演劇（非言語）ワークショップ、身体表現の講座な
どの活動をしている。

第1～12回全国高校生手話パフォーマンス甲子園審査
員長、平成22年度横浜文化賞・文化芸術奨励賞受賞。

一人ひとりのタイミングを大切にする ノンバーバルコミュニケーション

メイミ

Meimi



今年のノンバーバルコミュニケーションワークショップは石川県での開催でした。

いつもと少し違ったのは「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」の翌日、翌々日の開催だったことです。

3箇所の施設様でワークショップを開催しましたが、そのうちの2施設は、スポーツ広場でご一緒し、ワークショップで再会しました。

イベント司会者としての自分と、ファシリテーターとしての自分。異なる関わり方を通して、参加者にも自分にも新たな発見がありました。

スポーツとワークショップ、それぞれ関わり方が変わることでより深いコミュニケーションが生まれたように思います。

継続的に関わることで安心感や信頼関係が育まれ、その土台があるからこそ、より深い関係性へとつながることを実感しました。

こうした積み重ねは、その場限りにとどまらず、このワークショップでの気づきが、日頃から参加者さんと向き合っておられる職員様やご家族の皆様との関わりの中でも活かされ、一人ひとりの新たな表現や可能性を引き出すきっかけになれば嬉しく思います。

ファシリテーターとして大切にしていること

改めて、このワークショップのファシリテーターを担うにあたり、大切にしていることを書いておきたいと思います。

まず、講師と言えど私たちは何かを教えるという立場ではなく、参加する皆さんへきっかけとなるボールを投げる役目と思っています。

それに対し相手から返ってきたものを丁寧に受け止め、そしてまた投げ返す。

そのコミュニケーションのキャッチボールから新しい表現や笑顔が生まれる、その場づくりを担っています。



一人ひとりのタイミングを大切にする

当然ながらそれぞれに反応は全く違います。

今回のワークショップの中では、積極的に前に出る人、そっと近づき小さな声で「ぼくもやりたい」と伝えてくる人、最後まで見ているだけの人、色々な反応がありました。

そして、どの姿もそれぞれのコミュニケーションの形です。

少し勇気を後押しした方が良い人、あえて見守った方が良い人、相手の視線・表情・ちょっとした動きを観察し見極めながら、一人ひとりのタイミングを大切にすることを心がけています。

無理に参加を促さないこともあります。ですが、その場にいてくださる一人として、決して意識から外すことなく、その方に気持ちを向け続けています。

そして今回は、ワークショップ中、静かに見守っていた方が、終了後に自ら近づいて声をか



けてくださる場面もありました。

改めて、人にはそれぞれのタイミングがあることを実感しました。

第三者から気づかせていただいたこと

終了後、関係者の方から「庄崎さんは自由にのびのびと進め、メイミさんは置いていかれる人がいないようにフォローしている」という言葉をいただきました。

庄崎さんとは長年一緒に活動してきたので、意識して役割分担しているわけではありません。

自分では当たり前続けてきた関わり方を、第三者の視点から言葉にさせていただいたことで、自分自身の役割を改めて意識する機会となりました。

最後に

ワークショップ終了後、どの施設様でも

「面白かった!」「また来てね!」「ありがとう!」という言葉がたくさん聞かれました。職員さんも含めて参加者皆さんの表情が柔らかく変化していたことは印象的でした。

ノンバーバルコミュニケーションは、言葉を使わない技術ではなく、一人ひとりをよく見て、言葉にならない表現に耳を傾け、その人らしいタイミングに寄り添うことです。

ときには一歩踏み出す勇気を後押しし、ときには静かに見守る。

これからも一人ひとりのタイミングを大切にし、その人らしさが自然と表現できる場づくりを続けていきたいと思います。

メイミ

漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長。港区登録手話通訳者。

都内デイサービスセンター勤務の経験を活かし、全国各地の福祉大会や学校、介護セミナー、一般向けのイベント等、幅広い場で講演活動を行なう一方、NPO法人を立ち上げ、芸人・歌手・パフォーマー等各分野のエンターティナーの協力を得ながら高齢者施設、障害者施設、福祉イベント等での催しを開催。自身も演芸の舞台に立ち、介護福祉のリアルを漫談で伝えている。更に、港区登録手話通訳者 手話パフォーマンス、障害者スポーツ大会での司会やパフォーマンス、養護学校でのワークショップ講師等、障害者福祉との関わりも深い。モットーは「笑って長生き」「笑顔は副作用のない魔法のお薬」



プログラム概要

社会福祉法人すすき 7月7日（火）

時間	プログラム	写真
10:05～	ワークショップ開始 ハイタッチ 拍手 グータッチ	
10:15～	早着替え 変身ショー オリジナルダンス	
10:30～	エアボール エアキャッチボール エアなわとび	
10:35～	ミラーリング	
10:45～	汽車ごっこ オリジナルポーズ ナイスハートマーク	
10:55	ワークショップ終了 【参加者合計17名】	

参加者の感想

社会福祉法人すず椿 7月7日（火）

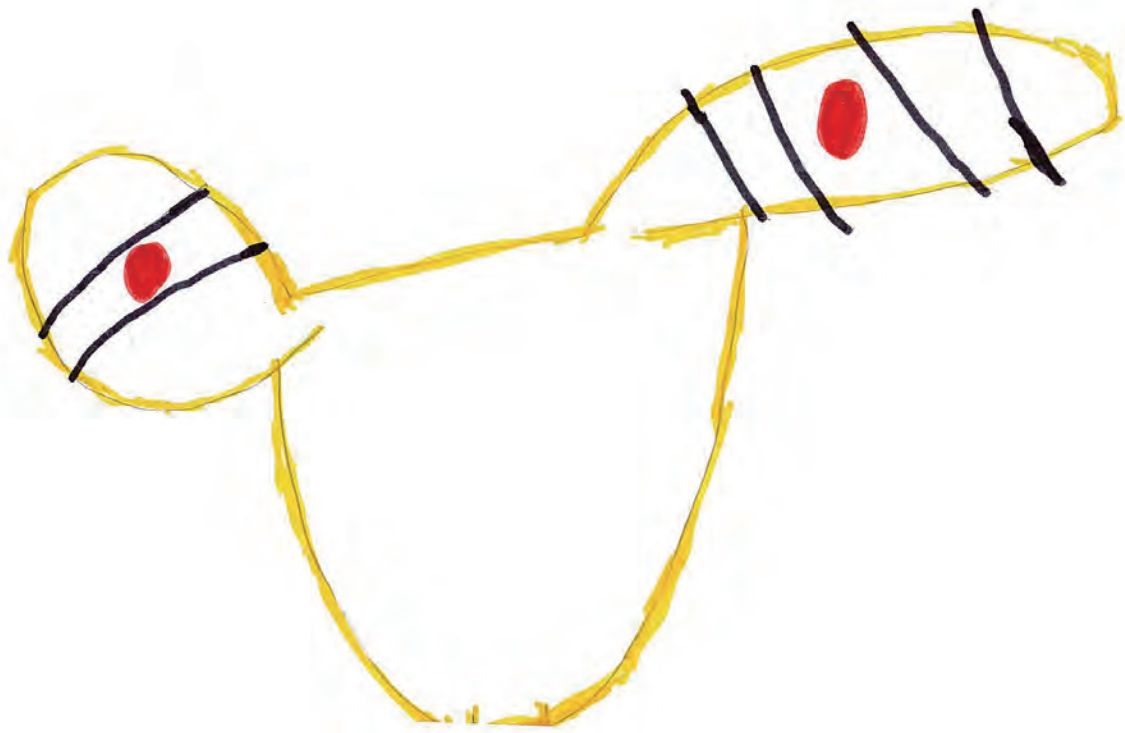
- いろんなピカチュウなどのかぶり物があり楽しかったです。
ハイタッチしてありがとう。
- なわとびが面白かったです。
- 言葉も無かったんですが、こんなに楽しめるんだ。と感動しました。皆さんとても楽しそうでした。



プログラム概要

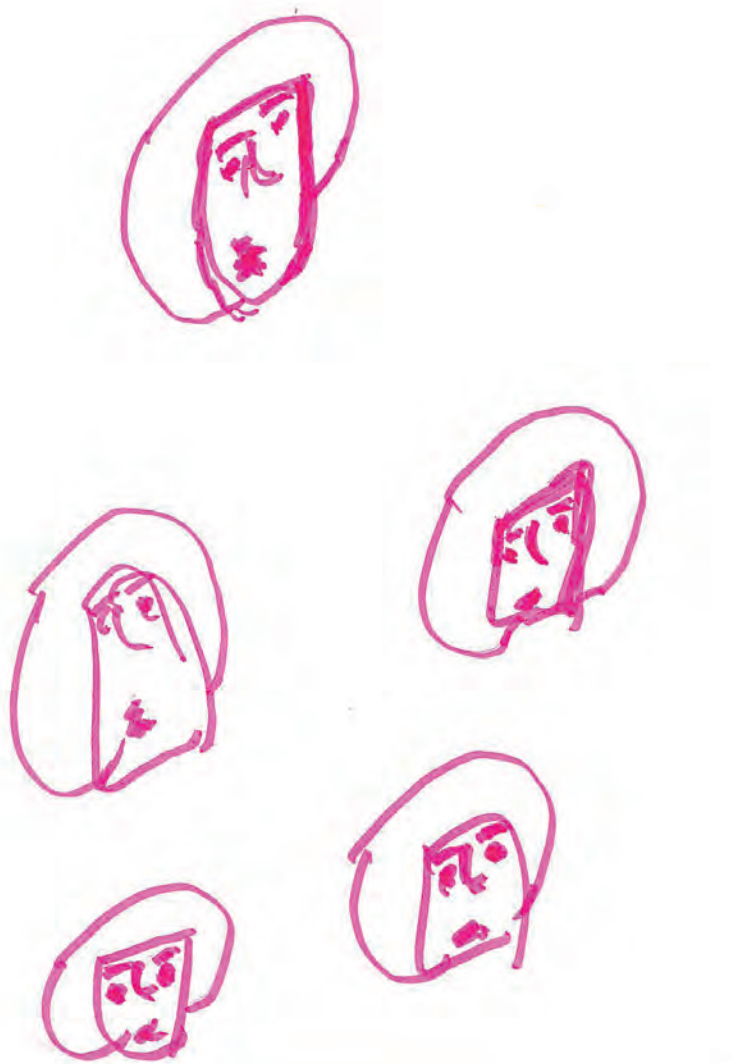
特定非営利活動法人 いきいき 7月8日（水）

時間	プログラム	写真
09:45～	ワークショップ開始 ハイタッチ 自己紹介 手拍子 ナイスハートハートマーク	
09:50～	オリジナルポーズ サインネーム	
10:05～	早着替え 変身ショー	
10:20～	エアお手玉 エアなわとび オリジナルダンス エアフィッシング	
10:40～	庄崎パフォーマンス 男と女の出会い	
10:45	ワークショップ終了 【参加者合計16名】	



木〇ケモンがかわい
れてよかったて"あ

勝井



手話はむずかしい

手話ばかりで

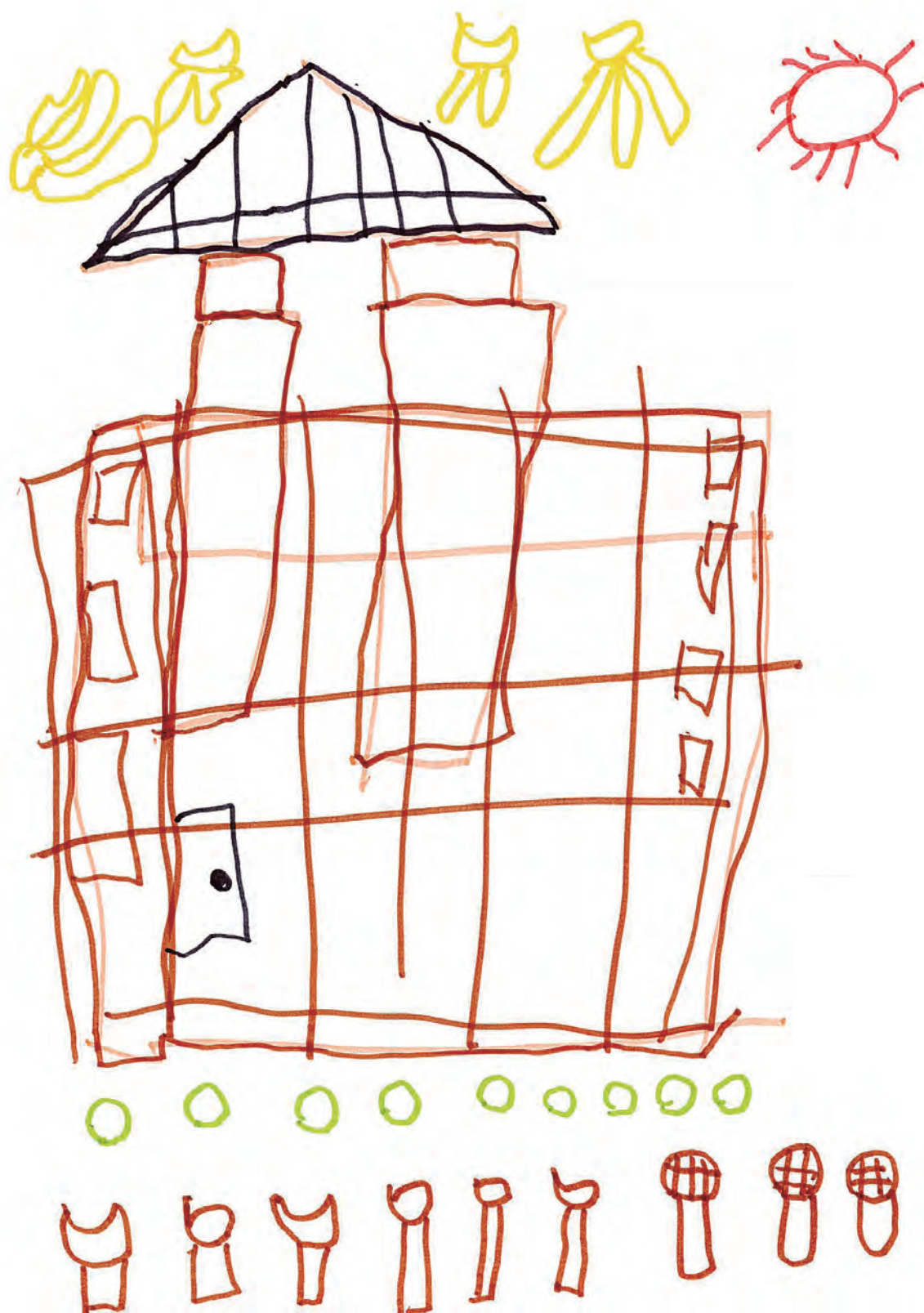
けきそう たねんどうにがて

です。







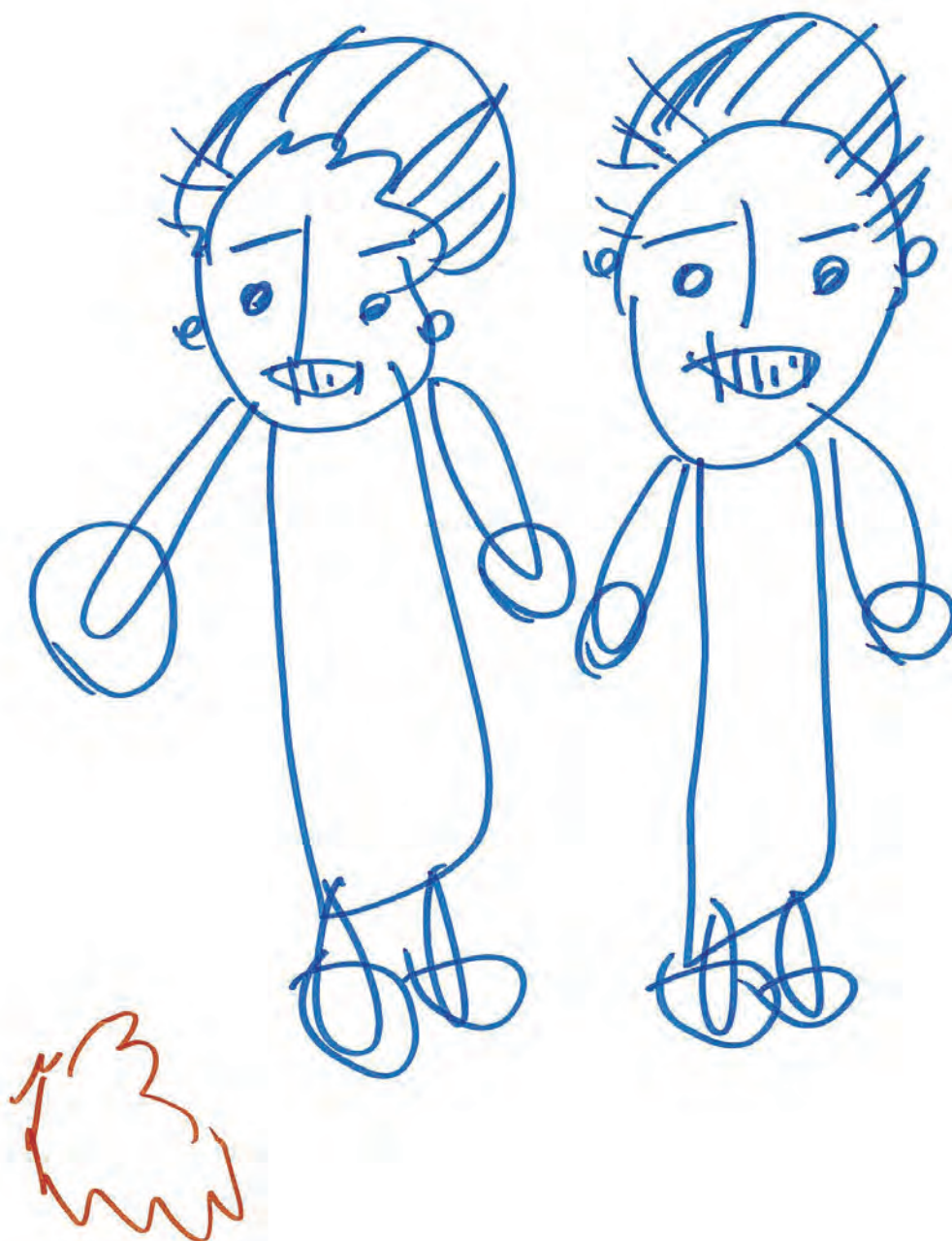


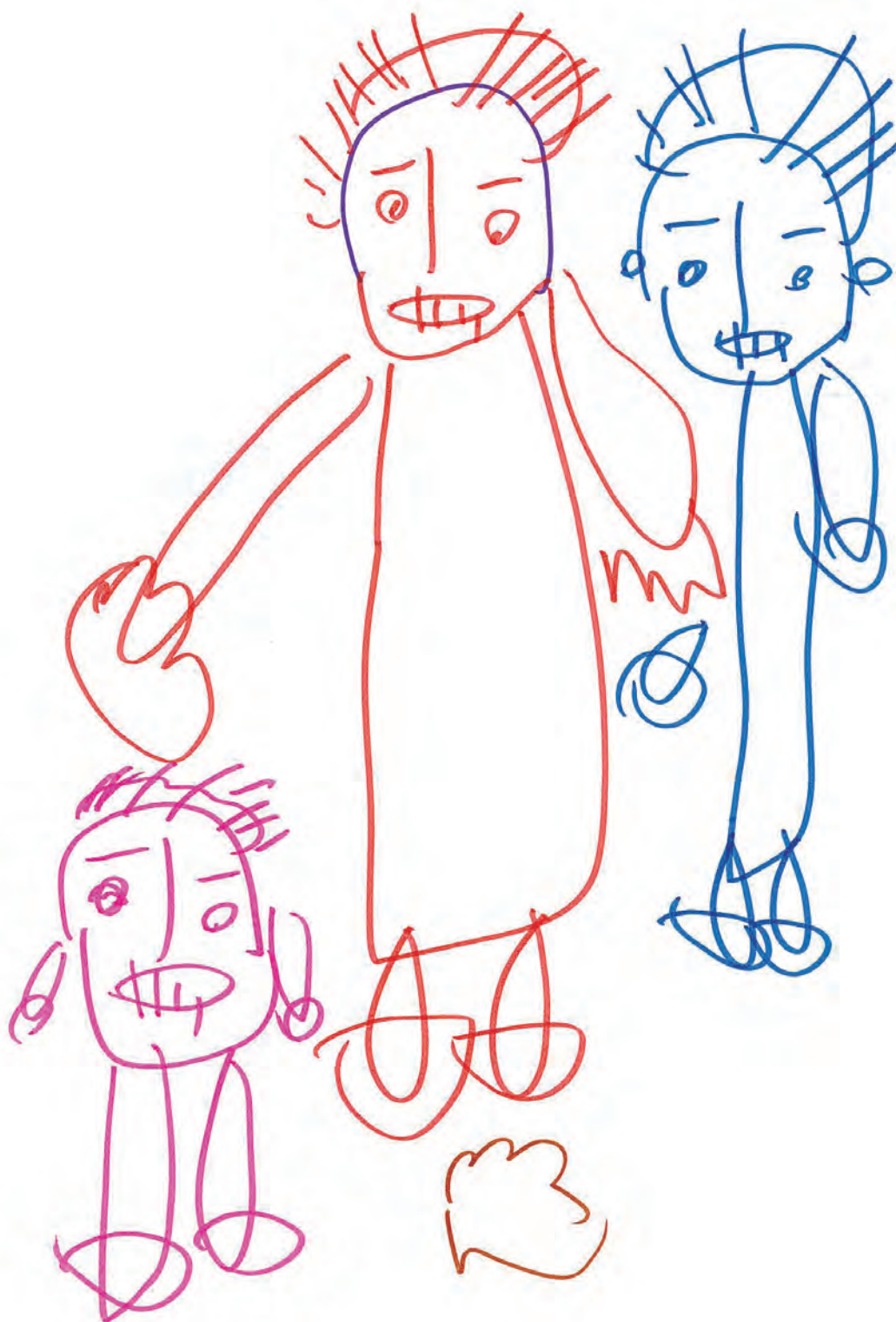




谷







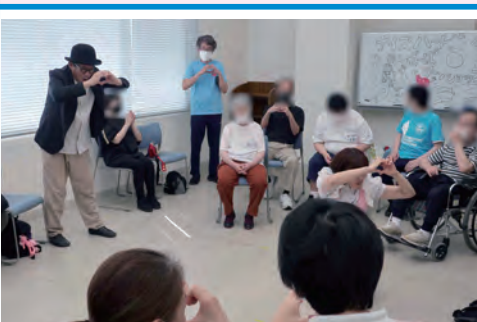
あの日は、メンバーもスタッフもみんなが心から楽しむことができ、本当に最高の時間となりました。

特に、耳の聞こえないメンバーは、これまでイベントのたびに「自分は聞こえないから…」と、どこか遠慮してしまい、十分に楽しめていない様子でした。しかし、今回のワークショップでは自ら積極的に参加し、笑顔で楽しんでいる姿を見ることができ、胸が熱くなりました。

言葉だけでは伝えられないコミュニケーションの大切さを、改めて実感する貴重な機会となりました。

プログラム概要

ねむねむの輪 7月8日（水）

時間	プログラム	写真
14:00～	ワークショップ開始 ハイタッチ 手拍子 エア相撲	
14:10～	オリジナルポーズ 早着替え 変身ショー	
14:30～	エアボール エアキャッチボール	
14:35～	エアフィッシング エア舟漕ぎ	
14:45	手拍子 オリジナルダンス ナイスハートマーク ワークショップ終了 【参加者合計19名】	

参加者の感想

ねむねむの輪 7月8日(水)



編集後記

初日の訪問先となる珠洲市に行きながら、道路のあちこちで地震や土砂災害とおぼしき修復工事が見受けられました。このワークショップは、2011 年度より東日本大震災等の被災地を対象として活動を実施してきましたが、まさにこの目的に沿ったワークショップだと実感しました。

今回もふれあいのスポーツ広場に参加頂いた施設中心に訪問させていただき、初日の訪問先は、何と前日にふれあいのスポーツ広場金沢大会に参加頂いた施設で、2 日連続でふれあうことが出来た貴重な場となりました。

ファシリテーターのお二人は例年より短い期間となる約 4 か月ぶりの再会で、何が起るか、どんな反応があるのか、未知数の中でのスタートとなりました。阿吽の呼吸でノンバーバル（非言語）を駆使して、参加者 1 人 1 人と向きあい始めていく。参加者と同じ動きを真似、向き合ってくれなくても真似、その繰り返しで、いつしか参加者が向き合っていく。いつまでも向き合ってくれない参加者にも、自分の衣装を着せたり、参加者の持ち物に関心を示したり、寄り添う心を忘れない。続ける力が、2 人の原動力になっているとまざまざと見せつけられ、コミュニケーションに言葉なんていない、と思える瞬間の数々に出会えました。

一緒に溶け込む職員の方々もこのワークショップには欠かせない存在です。様々な立場からはたまた色んな角度から、心を解きほぐしていくこのワークショップが、日常生活のコミュニケーションにも役立つことと信じて、このワークショップに関わって頂いた全ての方々に感謝申し上げます。

（公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金 高倉 和樹）

2026 年度ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ
実施報告書

2026 年 8 月発行

発行元 公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金